

手話言語について

— 手は語る、心を伝える。目で見える言葉「手話言語」を知ろう —

手話言語は、手の動き・顔の表情・視線・体の向きなどを組み合わせて表現する「目で見える言語（視覚言語）」です。

◆ 誤解しやすい「3つの真実」

① ジェスチャーではない

身振り手振りではなく、独自の「単語」と「文法」を持った、日本語や英語と同じ独立した一つの言語です。

② 日本語をそのまま表したものではない

ろう者が使う「日本手話言語」は、日本語とは語順や文法構造が全く異なります。日本語とは別の「外国語」に近い関係です。

③ 世界共通ではない

国や地域によって異なります（例：アメリカ手話言語、イギリス手話言語）。日本国内でも方言のように地域差があります。

◆ 手話言語の歴史 — 禁止から「言語」として認められるまで

年・月	出来事	歴史的な意味・内容
1878年	日本の手話の始まり	京都に「京都盲啞院」設立。全国から集まったきこえない子どもたちの間で、日本の手話の原型が自然発生的に誕生。
1880年 9月	● ミラノ会議（国際ろう教育会議）	きこえる教育者だけの投票で「手話禁止・口話絶対」が決議。世界中で手話が事実上「違法化」され、日本のろう学校でも1930年代以降、厳しく禁止された。
1951年9月23日	世界ろう連盟（WFD）設立	イタリアで設立。ミラノ会議以降、抑圧されていた世界のろう者コミュニティが「手話と権利を守る」ため初めて国際的に団結。
1960年代以降	手話は「言語」と証明	言語学的研究により、手話が音声言語と対等な独立した言語であると証明される。社会運動が活発化。
2006年	障害者権利条約	国連で採択。手話が法律上の「言語」として国際的に明記された。
2010年 7月	● バンクーバー会議（決議の全廃）	カナダでの国際会議で、130年前のミラノ会議の「手話禁止決議」を公式に全面却下・全廃。世界が公式に謝罪。
2011年	日本の法律で「言語」と明記	「障害者基本法」改正。日本の法律で初めて「手話は言語である」と定義され、手話禁止の歴史に国レベルで終止符。
2013年以降	手話言語条例の広がり	全国の自治体で「手話言語条例」の制定が広がる。
2017年	手話言語の国際デー制定	国連が9月23日（WFD設立日）を「手話言語の国際デー」に制定。
2023年 5月	ユネスコ「世界の記憶」認定	ミラノ会議とバンクーバー会議の記録が、ユネスコ「世界の記憶」に認定。
2025年 6月	● 「手話施策推進法」施行	日本全国で手話施策を進める予算・環境整備を国に義務付ける法律が施行。法律上で「9月23日は手話の日」と規定。

手話言語は、ろう者が受け継ぎ、大切に育ててきた「言語」です。

かつて禁止された時代を乗り越え、いま、法律で「言語」として認められました。

手話言語への理解と関心を広げることは、誰もが安心して暮らせる社会への第一歩です。

9月23日は「手話の日」／手話言語は、みんなの大切な言語です。

手話言語への理解を深め、誰もが自分らしく暮らせる共生社会をつくりましょう。